

## にしお未来創造ビジョン（第8次西尾市総合計画）（案） パブリックコメント結果

1. 意見募集期間 令和4年10月5日（水）から令和4年11月4日（金）まで
2. 閲覧場所 市ホームページ、市役所本庁舎（秘書政策課及び行政情報コーナー）、各支所、各ふれあいセンター（幡豆ふれあいセンター除く）  
幡豆公民館、佐久島出張所
3. 意見の提出方法 直接、郵送、ファックスまたは電子メール
4. 意見の提出者数 13名（82件）
5. 意見の反映 反映箇所は赤字になっています。

### 全体

NO	いただいた意見	市の考え方
1	計画書全体に言えることですが、新しい言葉（高齢者にはわかりにくい言葉）が多用されているので、不親切な計画書だと感じました。もちろん注釈はありますが、できれば、紙面だけでなく、様々な方法で説明があれば助かります。	今後、概要版を作成していきます。概要版については、新しい言葉や難解な言葉をなるべく利用せず、わかりやすくしていくよう留意します。また、計画書は、市のホームページで公表させていただきます。
2	本計画書は、現状と課題、目標など、わかりやすく組み分けできていて良いと思います。	概要版の作成時にもわかりやすさに留意して作成していきます。
3	全体的に聞き慣れないカタカナ言葉が多く、なかなか内容が頭に入っていない。	カタカナ言葉に限らず、聞き慣れないと思われる用語は該当ページと資料編で解説を付し対応しています。
4	3ページ、「バックキャスト思考による“長期的な視野に基づく指針、で20年後の本旨のあるべき将来像をイメージし、とある。計画の中では、20年後の将来像が見えない。あるべき将来像を示されたい。	各施策のめざす姿は20年後のあるべき姿をイメージし、そこから逆算した各施策における10年後のめざす姿です。ビジョン全体では基本構想で掲げる「もっとワクワクするまちにしお」のあるべき将来都市像として掲げています。
5	人口について、外国人が増えて、実際日本人は減っていることは、説明したほうが良いと思います。だから、今後は外国人との共生が重要ですね。外国人の問題は、国籍を取得して定住なのかどうか。実際、円安になって、海外で働く人が増えている現状を踏まえると、あてにしないほうが良いかも。そのあたりも検討してください。	外国人人口の増加については、7ページで説明しており、総人口の増加数よりも外国人の増加数が多いことから、外国人が日本人より増加していることがわかると思います。 ご指摘の通り、外国人との共生は重要だと考えており111ページ「多文化共生の推進」では、外国人の方が暮らしやすい施策を掲げています。
6	9ページ、10ページにある住民アンケートの結果はどのように反映されたのでしょうか。一見、18ページにある基本目標には住民アンケートの結果が反映されていない	今回のアンケート結果は全庁的に情報共有しており、各策定担当者が基本計画を立案する際の参考資料として活用しています。

NO	いただいた意見	市の考え方
6 の 続 き	<p>ように感じてしまうので、教えていただけると幸いです。</p>	<p>例えば、本市に住み続けたいと感じていただける割合を増やしていく施策として、30ページから37ページに掲げた「にしおワクワク戦略」や108ページの「シティプロモーション」を推進することで定住人口の増加に繋がりたいと考えています。</p> <p>また、10ページの施策の満足度と重要度については、過去10年間の取組を総括する内容であり、今回の計画を策定していく際の検討資料として活用しています。11ページの将来の方向性については、「安全安心なまち」、「暮らしやすいまち」など生活に密着した施策が望まれていることが分かりましたので、基本目標2「社会基盤」や基本目標5「自然環境・生活」の中で施策の展開方向を示しています。</p>
7	<p>12ページの策定の背景中で、「誰一人取り残さない社会」の項目中で「SDGs」が出てきているが、その本質がわかるように、だれもがわかるように「SDGs」の説明が必要ではないか。</p>	<p>P4でSDGsの理念とビジョンとの関連性について説明し、各施策では関連するSDGsゴールをアイコンでお示ししています。</p>
8	<p>西尾市駅前周辺を都心拠点としていますが、自動車社会の西尾市は、分散化シティと官公庁のある駅周辺という考え方の方が現実とマッチしていると思います。</p>	<p>進行する人口減少社会に向け、利便性の高い都市を目指し集約型都市構造の構築が必要と考えています。そのため分散化という考え方ではなく、まちづくり施策を重点的に行う各拠点を位置づけた上で効率的な都市づくりを進めます。</p>
9	<p>他市との差別化や西尾市ならではのといった、目玉施策が欲しいと思いました。例えば、「芸術の街にしお」「アーティストの街にしお」「漫画家が多く住む」「西尾市サイバーシティ」など。ネット無料シティも魅力的ですね。</p>	<p>西尾市ならではのの特徴として、「にしおワクワク戦略」を位置づけています。また、ご意見にある具体的な提案については、個別事業の検討の際の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>米津が聖地になっているって知っていますか？アーティストの米津さんの影響らしいです。</p>	<p>貴重な情報をありがとうございます。米津玄師氏に限らず、聖地巡礼は来訪者を招く有用な手段であることから、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
11	<p>長年映画館がありませんので、映画館誘致を希望します。</p>	<p>今後の魅力あるまちづくりの推進において参考とさせていただきます。</p>

にしおワクワク戦略

NO	いただいた意見	市の考え方
12	<p>31 ページの KPI について、まず、「KPI」なんて言葉を市民のどれほどがすぐに理解できると思われますか。目標の指標にすべき数値ならそのまま、わかるようにすべきではないでしょうか。</p> <p>また、その KPI に、西尾の魅力度を「全般的に住みやすい町と思いますか」との問いに、10 点満点中、7 点以上と回答した人の割合とされていますが、魅力度と住みやすいと思うかをリンクさせることが意味不明。それも、70%に上げる目標も、どのような目標なのか意味不明。</p>	<p>ご指摘のとおり「KPI」という表現は分かりづらいため、40 ページ以降の分野別基本計画に合わせ「指標」へ変更します。</p> <p>魅力度と住みやすさとの関係性は、現状値を把握するために実施したアンケート調査で「全般的に住みやすいまちであること」という設問に対し、魅力を感じるかどうかという視点で 10 円満点評価していただいた結果です。70%は年間 3%ずつ上乗せをする目標です。5 年後の見直しの際に再度アンケート調査を実施する予定です。</p>
13	<p>P31 以降、重要指標として KPI という言葉が急に出てくるが、普通の市民が見て KPI という単語の意味はわからないのではないかと。初めて登場する P31 だけでも KPI（重要業績評価指標）のようにカッコ書きした方がよいのでは。</p>	<p>上記 12 の「市の考え方」とおり「KPI」という表現は分かりづらいため、40 ページ以降の分野別基本計画に合わせ「指標」へ変更します。</p>
14	<p>P31「西尾の魅力度」、P37「居場所の数」各 KPI が何の数値（どういったアンケート結果）を参照しているか不明確。</p> <p>また、P35「マイナンバーカードの普及率」は国策で推進しているにもかかわらず、すぐにも達成してしまいそうな低い目標しか掲げられていないがいいのか。そもそも、P39 以降に各指標が示されており、わざわざ KPI を分けて記載する必要があるのか。</p>	<p>「西尾の魅力度」及び「居場所の数」は現状値を把握するために実施したアンケート結果を引用しています。アンケート内容は「西尾の魅力度」は記述のとおり、「居場所の数」は注釈でお示ししています。</p> <p>「マイナンバーカードの普及率」は、「西尾市 LINE 公式アカウントを入り口としたオンラインサービス数」とし、R4 は 5 サービス→R9 は 15 サービスに変更します。</p>
15	<p>33 ページの「TSCボード」という言葉は、市民に理解されているのでしょうか。この他にも「デジタルデバイド」「VUCA」（説明はあるが）など、全体的に、市民の民地が少ない言葉を乱用されているように思う。言葉の説明があっても、市民にある程度認識のある言葉を思い起こさせる程度の説明が必要な言葉はともかく、あまりに馴染みのない用語を使うのはやめてほしい。「だれ一人取り残さない」とは逆行しているのではないかと思う。</p>	<p>TSCボードは観光協会、スポーツ協会、文化協会で組織する会議体、デジタルデバイドは情報格差を意味しますが注釈を追記します。</p> <p>昨今の社会経済情勢や時代の潮流に合わせて作成しているので、馴染みのない言葉も出てきますが、カタカナ言葉に限らず、聞き慣れないと思われる用語は該当ページと資料編で解説を付し対応しています。</p>
16	<p>35 ページの KPI にマイナンバーカードの普及率を用いるのはやめてほしい。個人の任意での取得なのに、取得をしない意思の人にはプレッシャーを与え、行政も強引な取得をあおるようなものになると思います。</p>	<p>上記 14 の「市の考え方」とおり、「マイナンバーカードの普及率」は、「西尾市 LINE 公式アカウントを入り口としたオンラインサービス数」とし、R4 は 5 サービス→R9 は 15 サービスに変更します。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
17	<p>・新たな居場所の創造 に関して 居場所づくりは大変重要な事業で、今後ますます要望が高まると思います。 プロジェクト1, 2, 3で述べられているようにあらゆる市民が生きがいをもって活躍できるように支援するために重要な基盤です。 ただし、新しい課題が日々生まれる現実において、庁内の調整だけでは後手になったり、十分に寄り添った活動が出来ないことが危惧されます。 常に時代に即して必要とされる居場所を創造し、あらゆる市民を支援するためには、自然発生的な民の力を活用することが大切と思います。 そのため、民の居場所創り活動との連携や、空家情報提供など、民の居場所創り活動の支援などを市の居場所づくり活動に追加していただきたくお願いします。</p>	<p>ご指摘のように変化が激しく多様化する社会において、新たな居場所を創造することは重要な施策であり、必要に応じ、官民連携を進めてまいりたいと考えています。 その一例として、多分野が連携した居場所づくりの中で「農福連携事業」を掲げたところですが、基本構想のまちづくりの視点や、分野別基本計画の目標6施策1「パートナーシップ」でもお示したように、市政運営全般で官民連携を推し進める中でご指摘の活動も検討いたします。</p>
18	<p>今回、「にしおワクワク戦略」のプロジェクトの一つに、農福連携が掲げられたことをまずは歓迎いたします。しかしながら、事業の位置づけが「居場所づくりにとどまっておき、どこか消極的なニュアンスが感じられることが気になります。また、施策5の農水産業の項目と、まだ連携が取れていないようにも感じられます。 県立にしお特別支援学校が、人里離れた場所ではなく、憩いの農園すぐ近くの、市民に開かれた地区に開校したのは意義深いことだと思います。子どもたちがピカピカの校舎で大切にされている様子が日常的に市民の目に入れば、障がいのある子どもに対する周囲の意識も自然と変わってくるように思うからです。 農福連携は、さまざまに展開できる可能性を持った、夢のある事業だと考えます。例えば農業に特化した特例子会社の設立や農福カフェの運営などを、西尾市やJA西三河が中心となって進めるなど、大きなプロジェクトも考えられます。ぜひとも、「西尾市が県下のみならず全国に知られる、農福連携の先進地になる」くらいの、積極的な姿勢で取り組むべきではないでしょうか。 こうして西尾市ならではの農福連携事業が発展すれば、市民もそこに新たな価値を見いだすことができます。この施策を通じて農業の大切さが改めて実感され、それに携わる方々すべてが自分自身の大切さを実感できるように期待いたします。</p>	<p>農福連携については、農業、福祉、行政の各関係者がこれから有効な施策を模索していく必要があります。市としましては、にしお未来創造ビジョンに示すとおり、積極的に取り組んでまいります。 なお、今年度より県立にしお特別支援学校とJA西三河が連携して、生徒たちの実習圃場の提供、憩いの農園での展示スペースの確保などが始まります。今後は、こういった取組の経験を生かし、他方面への施策を展開していく予定です。</p>

分野別基本計画 目標 1 新たな魅力に挑戦するまち

NO	いただいた意見	市の考え方
19	アンケート結果で上位ではない項目にもかかわらず、歴史文化や観光、スポーツに重きが置かれている気がする。何のためのアンケートなのかわからない。アンケートでは低位ながらも、市として大切にしていきたい項目なのであれば、理由を付して説明した方がよいのではないか。	総合計画は向こう 10 年間における市政全般のマスタープランであるため、広くまんべんなく各施策をお示しする必要があります。ご指摘の歴史文化、観光、スポーツ分野は、将来都市像「もっとワクワクするまち にしお」を具現化する重要な施策であると考えており、その内容は、「現状と課題」、「指標」、「施策の展開方向」で説明しています。
20	西尾まつりで中央商店街を歩くと、いろいろといい店があると思うものの、普段は行く機会がありません。どうしても西尾では車中心の生活をしているためか、中央商店街は行きにくいイメージがあり、駐車場の場所も分かりません。数か所の駐車場の整備とそこからの観光ルートを作るのはどうでしょうか？ そうしたら普段も行きやすいし、観光に来た人にも良いコンテンツにできるのでないでしょうか？	ご提案いただきました、中央商店街周辺エリアについては、歴史的な風情や情緒を活用するため、歴史公園を核とした観光振興に取り組んでいます。 ご指摘のとおり、観光客誘致において駐車場の確保は重要な課題ではありますが、名鉄西尾駅から歴史公園まで歩いて回りたくするような観光ルートの磨き上げにも努め、観光振興と同時に、くるりんバスや名鉄にしがま線の利用拡大にも繋げられるようなコンテンツづくりにも取り組んでまいります。
21	それぞれの観光地や有名な場所が点在している状態のものを、うまくまとめ上げることはできないものかと思います。車で訪れるのが基本だと思うので、車で回ることを前提とした施設の紹介が出来たらよいかと思います。吉良の宿泊施設から、車で一色、吉良、幡豆、旧西尾と、各地域を回るルートはどうでしょうか。ウナギも、海も、歴史も、抹茶も、車があれば観光で味わい尽くせるのではないのでしょうか？	今後の観光ルート創出において、参考にさせていただきます。
22	40 ページの KPI で観光入り込み客数の現状値は、2021 年を用いているが、コロナ禍で最も影響が大きく出る観光に、コロナ禍の数値を用いるのは、全く納得できない。そのほかのところでも、文化振興事業の参加者、スポーツ施設利用者数、中心市街地への来訪者数などなど、多くでコロナ感染症の影響のある年度が現状値に採用されている。生涯学習での講座受講者数、自然環境のいきものふれあいの里利用者数、などでは、コロナの影響を鑑みて現状値をコロナ禍前の値にしている。それが当たり前と思う。統一しないと、目標値を示す上で、何か意図的なものを感じてしまう。	観光は、県外や国外からの誘客を対象にしており、市民や近隣の利用者を対象とする施設とは数値の戻りは遅くなると考えております。ご指摘のとおり観光業界はコロナ禍により大きな影響を受けており指標設定の段階でその影響がいつまで続くかも予測ができず、2019 年の状態に戻るのいつになるかは定かではないことから直近の数値を現状値として設定しております。
23	にしがま線も、移動手段ではなく、観光資源として、電車に乗って、各駅での観光を紹介するのはどうでしょうか？ あるいはやはり子供は電車に乗るだけでも楽しいイベントになるので、子供が楽しめる目的にも合わせた半日遊びルート、一日遊び	観光振興と公共交通の利用促進は関係が密接で、親和性の高い施策です。いただいたご意見を参考に、観光資源としての名鉄にしがま線の活用方法について、関係課と連携し、検討してまいります。

NO	いただいた意見	市の考え方
23	ルートの紹介が出来たらよいのではないのでしょうか。	
24	プロアスリートの育成よりも、市民がスポーツを通じて楽しめるイベントや、場所の提供の方が重要だと思います。それは生涯スポーツにも、介護予防にもつながるのではないのでしょうか？ そういう機会が増えれば、自然とスポーツに興味を持つ子供たちが増えるのではないのでしょうか？	ご指摘のとおり基本となるのは、スポーツ実施率の増加です。そのために、市民が要望する多種多様な種目に対応できる施設整備を計画的に進めてまいります。その中の1つとして頂点を目指す「トップアスリートの育成」がありますのでご理解いただきますようお願いいたします。
25	プロレス等興行イベント開催によるまちの活性化（安城市が実施）	スポーツによるまちの活性化のため、ワクワクしてもらえるイベントやハイレベルな試合などの誘致や開催について積極的に推進してまいります。
26	企業間交流推進（総務担当者交流会等）。企業の問題を把握できる。	共創の考え方の中で、企業や支援団体、市民が意見を出し合う場の設置を進めてまいります。企業間の交流推進についても、積極的に進めてまいります。
27	施策4 商工業では、持続可能な経営の支援が謳われているところですが、既存商店街は寂れていくばかりです。指標でも、既存の商工業者件数を、特に中小零細の商工業者数の現状と数値目標を示され、必要な施策の展開を示されるべきではないか。	<p>商業においては、平成16年の1,370事業所から、平成28年の1,493事業所に増加しており、工業においては、平成28年の625事業所から令和2年の571事業所に減少しております。</p> <p>一方、付加価値の観点から見ると、第2次産業の一人当たりの付加価値額は、1,642万円であり、全国149位/1,741となっております。第3次産業の一人当たりの付加価値は、678万円であり、全国1,576位/1,741となっております。</p> <p>本市としては、生産による付加価値額の上昇、雇用と所得分配の上昇、市内消費の拡大といった経済循環の輪を大きくしていくことが重要だと考えております。その観点から事業者数の増加を直接的な目標値とは定めておりません。</p> <p>また、「付加価値額の上昇」、「雇用の拡大」、「所得分配の上昇」、「市内消費の拡大」について、持続可能な経営の支援の目的として必要な施策展開を検討してまいります。指標としては、施策展開における事業内容とその数値との因果関係が明確とならないため、指標としては採用しておりません。</p>
28	P46 中心市街地への来訪者数の目標は低くないか。	誤記載のため次のとおり修正させていただきます。【誤】年間【正】日平均
29	市民向けの情報で、「国民生活センター」からの防犯情報などを市から発信して欲しい。	国民生活センターからの情報をはじめ、消費生活に関する情報は、消費生活センターのインスタグラムにて発信しています。また、市のホームページにおいて国民生活センターのLINE、Facebookなどの案内も行っています。

NO	いただいた意見	市の考え方
30	農業はもっと集約して大規模化・機械化し、コストを下げる。	農業の発展、振興において、大規模化し機械化するというのは、作物によっては、必要な要素と考えておりますので、ご意見は今後の施策の参考にさせていただきます。
31	農水産業、地域ブランドの項でも、農地や農家件数、出荷額がわかる内容にし、そのうえで目標を定められたい。	<p>本市は、水稻を中心に花き、施設野菜、茶、果樹、緑化木、露地野菜、畜産など、様々な農産物が生産され、県下有数の農業産出額を誇り、農業が盛んな地域です。</p> <p>しかし、農業者の高齢化や担い手不足が深刻化しており、地域農業の維持・発展のためには、将来を担う農業者を育成、確保することが急務であると考えております。</p> <p>そのため、新規就農者や農業後継者等への支援や、生産性及び品質向上につながる AI や IoT などの新技術への取組みに対する支援を引き続き行っていきたいと考えております。</p> <p>農地の保全や、農家件数及び出荷額を増やすことは、同じく農業の発展に資するものであると考えておりますので、ご意見につきましては、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
32	P48 ふるさと納税納付額が、P108 ふるさと納税寄付件数と別ページに記載されているのは違和感がある。	P48「ふるさと納税の納税額」は、海産物や抹茶などの特産品振興を推進する視点、P 108「ふるさと応援寄附金の寄附件数」は、交流人口拡大を推進する視点で設定しています。

分野別基本計画 目標2 誰もがほっとする 持続可能なまち

NO	いただいた意見	市の考え方
33	道路情報カメラなどで道路の混み具合がわかるサービスが欲しい。	道路情報カメラなど道路の混み具合がわかるサービスは、有効な渋滞把握のツールであると認識していますが、市内の道路については、時間帯による渋滞は発生しているものの、常時、発生している状況ではないと考えており、現時点では整備していく計画はありません。今後は、その時点での道路の状況などにより、検討してまいります。
34	道路の項では、施策コード212の交差点改良事業の目標値があまりに低いのではないかと。 また、改良が求められる交差点箇所数も示されたい。 指標には、歩道整備率と目標値も示されたい。	交差点改良には用地取得が伴う場合が多いため、整備には長く期間を要しますので、進捗が低い状況ですが、できる限り早期の目標達成に努めてまいります。 交差点改良が求められる箇所数は19箇所、現状値は6箇所整備済の状況です。 町内会からの要望などを受けながら歩道整備を進めておりますので、具体的な目標や整備率を示すことは難しいですができる限りの整備推進に努めてまいります。
35	54ページからある公共交通ですが、主に利用される方は自動車免許を持っていない18歳未満、もしくは高齢者かと思えます。交通マップを作られると記載されていますが、これは子どもでも簡単に理解できるものでしょうか。 また、子ども達が安心して利用できるような公共交通サービスは取り入れられませんか。	公共交通については、通勤・通学での利用や移動手段を持たない方など幅広い年代の方にご利用いただくため、利用者に分かりやすい公共交通の実現に向けて取り組んでまいります。 公共交通マップについては、バスや鉄道などの路線情報のほか、いこまいかーの制度案内・目的地、バスの利用案内やお得な制度など、公共交通に関する幅広い情報が把握できるようになっています。今後、お子さんをはじめ市民の方に公共交通に対する理解を深めるための取組として、学校との連携による出前講座の開催や公共交通を使っておでかけする機会を創出する企画の実施を検討してまいります。
36	市街地の項での施策展開方向では、住宅セーフティネットを活用できる体制づくりとあるが、体制作りを進めるといって、体制づくりで一体いつまでかかるのか。早急に活用できるようにするべきです。	住宅困窮者に対する住宅セーフティネットは、市営住宅及び県営住宅で実施していますが、管理戸数が限られることから、民間施設を活用した住宅セーフティネットの充実を目指すものです。民間施設の活用については、関係団体との協議を進めておりますが、民間施設側のご理解が得られない点も多く、早急に活用するには至っていません。 体制づくりと表現していますが、「民間施設を活用する仕組みづくり」の意味になりますので、体制ができたタイミングで活用が始まるものをご理解ください。
37	公園緑地の項では、指標に都市公園箇所数が出されていますが、市民一人当たりの公園面積を指標に加えられたい。	市民一人当たりの公園面積も指標として重要とは思いますが、西尾市全域に公園を配置することも考えております。また、箇所数が増えれば、面積も増えると想定されるため、箇所数を重点に指標としております。



分野別基本計画 目標3 ともに楽しみ、ともに学び、ともに夢みるまち

NO	いただいた意見	市の考え方
38	<p>P66「子どもが真ん中」という「こども家庭庁」の言葉を引用するのであれば、「こども」も平仮名の方が統一感がないか。</p>	<p>こども家庭庁設立に関して、子ども政策は「こどもまんなか」行政を推進するとして、この「こどもまんなか」を意識した言葉ですが、総合計画策定の全体的な統一事項として「子ども」を用いることとしました。</p>
39	<p>ともに楽しみ ともに学び ともに夢みるまち ・ビジョンとして掲げている言葉は素晴らしく美しい言葉だと思います。しかしながら、長期的な視野に基づく指針と書いてありますが、現在やっていることをそのまま続けている結果の5年後、10年後について書いてあるように思います。今やっていることで希望的に見える未来でしかなく、曖昧な点が少し残念なところだと思います。</p>	<p>ビジョンの分野別基本計画に掲げる各施策については、現行計画の実績や進捗状況の評価を踏まえた10年後の目指す姿を掲げ、それを実現するための「現状と課題」を整理したうえで、「施策の展開方向」を示していますので、現行計画から継続して実施すべき施策は数多くあります。</p> <p>その一方で、学校教育施策の「きめ細やかな教育の推進」では、現行計画と比較し、配置スタッフの充実という点では、具体的に踏み込んだ内容としたことや、生涯学習センターの整備など長期的な視点に立った施策も位置づけています。</p> <p>ビジョンは行政運営の指針となる総合的な計画である性質上、今後の方向性を示す表現が多くなりますが、ビジョンに基づき毎年度策定する3か年実施計画では、より具体的に施策を検討いたします。</p>
40	<p>子育ての項の指標で、保育所の三歳未満児の受け入れ数が出されているが、入園希望者数の目標を出されたい。</p>	<p>保育所は就労等により子供の面倒を見ることができない家庭の子供を預かる施設であり、需要予測に基づいた受け入れ態勢の確保を今回の計画の目標数値としています。</p> <p>ご指摘の数値については、需要部分にあたり、市としてこれを増やしていくあるいは減らしていくという目標とする数値ではないため、計画の数値目標とすることは考えていません。</p>
41	<p>にしお未来創造ビジョン目標3 施策2 学校教育 (P68) の冒頭のめざす姿に「児童生徒一人ひとりに未来を拓く「力と心」が育まれるまち」とありますが、施策4 子ども・若者の育成支援にある施策コード341「コンパスが行う居場所支援の延べ利用者数【年間】」の数値は、5年で約1.8倍、10年で現在の2.5倍を目標値としてあげています。現時点でもすでにそうした支援を受けることが出来ない若者に手を差し伸べられることを意味した目標値なのかもしれませんが、15歳から30代という社会で積極的に活躍してもらいたい若い世代での引きこもりが増えることを行政として【目標値】として掲げていることは大きな矛盾ではないでしょうか？コンパスが支援をする</p>	<p>令和3年6月に開設しました子ども・若者総合相談センター「コンパス」は、開設当初から多くの方にご利用いただいております。しかしながら、コンパスを利用することに対して躊躇している方やコンパスを知っていただけていない方も見えると思います。このためコンパスではアウトリーチを行うことや広報と居場所の内容を充実させることで利用者の発掘、確保をしていきたいと考えています。こうしたことにより5年後10年後には、コンパスが支援する居場所の利用者が増えていくことで社会的自立への一歩を踏み出す子ども・若者も増えていくという考えで指標を設定しました。したがって指標4の指標は</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
41 の 続 き	<p>若者たちは急にそうなるのではなく、人生のその前の段階、つまり義務教育期までに何らかの心が折れる経験などがあって社会との関係性を拒否しているケースがかなりあります。</p> <p>実際に西尾市の学校でも不登校や不登校グレーの児童生徒がたくさんいます。もし施策2の目指す姿を本気で目指すなら、施策4の目標値は引きこもりが増えるのではなく減少する方向に設定し、若者が自分らしく自立し、社会と関わることができるような10年後の西尾市を目指すべきではないでしょうか？</p> <p>施策4の目標値を下げる分、施策2学校教育において、今以上に多様で積極的な不登校対策（不登校特例校の設置等）を講じることを掲げる時代がすでに来ていると思います。引きこもりになってからの支援、不登校になってからのあゆみ学級ではなく、手厚い支援が必要なほど心が折れてしまうもっともっと手前で、子どもたちの自信や自尊心を育むような方向性を見据えることが、10年後の西尾市のために間違いなく必要です。西尾市の学校では、子どもたちの生きる力を育むことができ、若者が社会へのびのびと羽ばたいていくことを未来に向けて宣言するぐらいの学校教育であることが、今の教育への大きな希望となり得ると思います。</p> <p>私も子ども4人の母として、子どもを育てるならそういう気概のあるまちで育てたいですし、西尾市がそうであることを願っています。</p>	<p>ひきこもりが増加していくことの反対の意味の指標となりますのでご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、ひきこもりの実数が把握できないため、提案の施策4の指標を「ひきこもりが減少する方向に設定」は難しいと考えています。</p>
42	<p>・施策2 学校教育について</p> <p>「児童生徒一人ひとりに未来を拓く「力と心」が育まれるまち」についてきめ細やかな教育の推進をするためには、まず、十分は教員の数を確保しないとけません。質のよい教員を確保するためには、教員が主体的に働きやすい学校、自分の時間も確保できるブラックな職場ではなくしていくことが大切です。</p> <p>次に、少人数学級の推進が必要です。多様化し、多国籍化する子どもたちに対応するためには、一人の教員が大人数に対応するには限界があります。</p> <p>教育アシスタントの配置数について言及してありますが、5年後に増える数が10人です。5年かけて西尾市の各校に1人増えるか増えない程度では、きめ細やかな教育を推進はできません。低学年だけでなく、各学年ごとに支援を必要とする子はたくさ</p>	<p>教員の人数については、県が定める基準に従って配当されております。市としましても、引き続き、非常勤講師の任用などで、学校・教員の支援をしていきたいと考えております。</p> <p>多国籍化する児童生徒への対応として、日本語教育担当教員の加配、日本語教育指導支援員の派遣、日本語指導に関わる研修、各種文書の翻訳などを通して、負担軽減に努めています。</p> <p>教育アシスタントについては、学校が必要とするほかの職との兼ね合いを見ながら、増員を考えてまいります。</p> <p>スクールカウンセラーについては、市費による対応により、カウンセラーが対応できる時間を増やしています。また、スクールソーシャルワーカーについては、段階的に人数や時間を増やす計画になっています。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
42 の 続 き	<p>んいます。特別支援学級に入っている子だけが、個別支援を必要としているわけではないのです。西尾市の不登校の数を見てもわかると思います。教員は日々、個々に寄り添うように心がけていますが、一人で見るには限界があります。また、支援を必要な子はその日、時期、学年によって変わります。教育アシスタントの充実が急務です。スクールカウンセラー、ソーシャルスキルワーカーの充実も合わせて必要です。</p> <p>給食は、児童生徒の健康な心と体の育成にとっても大切なものです。地産地消の取り組みがとても大切です。「愛知の学校給食」を今やっていますが、「西尾市の学校給食」西尾市の農家と提携して、西尾市の農家さんの形が悪く売れない野菜を給食で使う、有機野菜を進んで使うことで、食育や環境について考えていけるような取り組みをしていくべきです。</p>	<p>本市における学校給食については、食育や地産地消の大切さを十分認識しており、にしお未来創造ビジョンにおいても取組を推進するものとして位置づけています。給食用の食材として、売れない野菜は必要となる量の確保や流通ルートの課題があり、また、有機野菜については必要となる量の確保や購入費用の増加、さらには調理段階で下処理の時間が長くなるなどの課題があるため、現状では取り入れることは難しいと考えておりますが、ご意見は今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
43	<p>学校教育の項では、目指す姿に、少人数教育を推進とあり、施策展開の方向では少人数、個別指導とされている。今求められているのは少人数学級であり、少人数教育より少人数学級の方が、教育効果も一人一人のきめ細かな教育という点でも優れていることは常識です。少人数教育が包含しているということかもしれないが、明確に少人数学級とされ、指標の項目にも、目標値を出されたい。</p>	<p>少人数学級により、適切な教育活動を展開した場合の教育的効果は大きいと考えられ、現在、国や県の方針に従って段階的に進めております。</p> <p>少人数学級については、小学校6年生まで拡大する方針は示されていますが、それ以降の具体的な内容については示されていません。そのため、市として指標の項目に挙げて目標値を示すことはできませんが、引き続き、少人数学級の拡大により学級数増となった学年に教員を配置できるように努めてまいります。</p>
44	<p>P68、69 教員の働き方改革に全く言及されていないのはいかがなものか。(P66、67では保育士の働き方には触れているのに)</p>	<p>教員の働き方改革や業務改革については、これまでも校長会と連携して、事務作業の負担軽減や教育委員会主催行事、部活動の見直し、学校閉庁日の設定など、市として取り組んでまいりました。</p> <p>引き続き、取組を進めてまいります。教員の働き方改革を抜本的に進めていくには、定数改善など国の施策の改善が待たれるところであります。そのため、市の施策として項目に入れることは考えておりません。</p>
45	<p>目標3「ともに楽しみ、ともに学び、ともに夢見るまち」施策2 学校教育の中の施策の展開方向(p69)1 きめ細やかな教育の推進の中の項目に、一言も「教員の働き方改革」に関する項目がありません。慢性化した教員不足、ブラックな職場という悪名高き職場で、今教員のみなさんは本当に自分を犠牲にしながら日々の様々な業務を行ってくれていることを、一保護者としてひしひしと感じます。しかし西尾市だけでなく、</p>	<p>上記44の「市の考え方」のとおりです。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
45 の 続 き	<p>全国的にそうだから仕方がないと、この問題をこれ以上放置していいのでしょうか？ 教員は、子どもたちの一番近くで一番長く子どもにかかわる、本当に大きな役目を果たす職務です。その人達が自ら楽しみ、夢見ることができないほど業務忙殺されているような現実のままで、どうやって子どもたちは、日々を楽しみ、夢を見ることができのでしょうか？</p> <p>きめ細やかな教育の推進を、教員の過酷なほどの奉仕で当然のように賄おうとしてはいけないでしょうか？教員をしている友人たちに聞いてみると、彼らは本当に子どもたちと向き合う時間がほしいだけだと声を揃えて言います。ブラックな職場でも、子どもたちのために頑張ってしまう彼らの本音です。その気持ちのまま子どもたちと関わってもらうために、ムダな業務の大胆な削減、定時退校の徹底、教師でなくてもかまわない業務を積極的に地域の人に担ってもらうことで、地域の学校として共有していく（コミュニティ・スクール化）、もっと子どもたちを管理・監視・指導するばかりではなく、子どもたちの主体性を育みながら、教員の業務の負担を減らす等、教員の働き方を改善する方法はたくさんあります。</p> <p>教員が幸せに楽しんで仕事ができる学校は、子どもたちも絶対に登校したくなる楽しい学校になります。それが不登校をへらすこと、さらには引きこもり等をへらすことにもつながっていきます。</p> <p>これから先 10 年後の西尾市の職場としての学校教育が、確実に良くなっていくために、ぜひ教員の働き方改革への項目を追加してください。今の社会の流れからいって、今それを宣言しないと、10 年後の西尾市の学校はほんとうにブラックで、働きたいいい先生がいなくなってしまう可能性もありえると思いませんか？</p>	
46	<p>目標 3「ともに楽しみ、ともに学び、ともに夢見るまち」施策 2 学校教育の中の施策の展開方向 3 学校給食の充実 (p69) で、安全安心で魅力ある給食をありますが、この安全安心の中に、オーガニックや有機栽培の野菜を使った給食という概念は含まれていますか？昨年農林水産省も 2050 年までに有機農業の取り組み面積を 25%増やす「みどり戦略」を国として決定しているなど、SDGs の広まりと共に、減農薬・減化学肥料の大きな変化が世界規模で起こっている時代です。</p>	<p>本市における学校給食は、給食費（小学校 270 円、中学校 310 円）の範囲内ですべての食材を確保し、限られた時間内で調理して、年間 190 日程度、1 日あたり約 1 万 6 千食を提供しております。</p> <p>オーガニック（有機栽培）食材は、健康志向の食材であると認識していますが、給食用の食材として、一般的には、必要となる量の確保や購入費用の増加、さらには調理段階で下処理の時間が長くなるなどの課題もあるため、現状では取り入れることは難しいと考え</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
46 の 続 き	<p>日本各地でも学校給食へのオーガニックや有機栽培材料の導入の流れが生まれてきています。特に地元の農協などとの協力を得て、地元農家に有機栽培米や野菜を育ててもらったものを、給食で提供するなど、地域の環境にもより優しく、子どもたちの健康にも優しいWin-Winな循環を意欲的に作っている自治体も増えてきました。</p> <p>西尾市でも、ぜひオーガニックや有機栽培を視野にいれた、新しい地産地消の形を給食からはじめてもらいたいです。顔の見える農家さんが作ってくれた、安全で美味しい野菜を食べられることは、子どもたちにとって最高の食育になります。今後の実施計画の中で、ぜひ具体的な推進をお願いします。</p>	<p>ております。そのため、現時点ではにしお未来創造ビジョンに位置付けることは難しいと考えておりますが、地産地消や安全な食材の使用については、市としましても、出来る限り積極的に取り組んでいきたいと考えております。ご意見は今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
47	<p>71 ページ生涯学習機能について③に子どもたちをワクワクさせるという文言がありますが、具体的にどのような事でワクワクさせるのでしょうか。</p>	<p>子ども達が自分の「ワクワク」に出会う機会が増えるように学校では経験できないような講座の充実を図ります。例えば、自然と触れ合いながら学ぶ講座、普段関わることのないような大学教授や各分野の専門家等を講師に招いた講座を開催する予定です。</p>
48	<p>72 ページにある 子ども会やPTA で学校を支援しという文言ですが、子ども会やPTA は保護者のボランティアで成り立っていると思います。現在これらの活動を負担に感じる保護者も多いと 感じていますが、それについての考えと負担軽減策があるなら教えていただきたいです。</p>	<p>子ども会活動は、地域の異年齢の子供たちとの交流を通じて、「子どもの夢」と「生きる力」を育むことを目的としています。PTA 活動は、保護者の子育て研修や情報交換、学校行事への参画などの運営サポートを通じた、学校教育活動への支援を目的としています。子ども会活動やPTA 活動は、共に子どもたちの健やかな成長に必要な活動であると考えております。</p> <p>これらの活動の負担軽減に関するご意見については、これまでも多くの保護者の方から伺っており、子ども会やPTA と協議し、定例的に実施している行事等の精査や会議の開催方法など保護者の負担軽減につながるよう努めているところであります。今後につきましても引き続き、時代の潮流に合わせて保護者の負担減に努めてまいります。</p>
49	<p>P72 コンパスの利用者数が増えることを目標に掲げるのはおかしくないか。本来望ましいのは、コンパスを利用せずとも人々が社会に溶け込むことのはず。(ニーズが1,000 件ある中で現状 300 件しか受け入れられていないから 750 件受け入れる体制を作る、ならわかる。その場合、記載した方が変な誤解を生まずに済むのでは。)</p>	<p>コンパスが行う居場所支援の延べ利用者数の指標については、上記 41 の「市の考え方」とおりです。</p>
50	<p>・施策 4 子ども・若者の育成支援について 「多様な悩みを抱える子ども・若者が社会的に自立できるまち」 コンパスが行う居場所支援の延べ利用数が、5 年後 550 人に増えていますが、これ</p>	<p>コンパスが行う居場所支援の延べ利用者数の指標については、上記 41、49 の「市の考え方」とおりです。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
50 の 続 き	<p>はいいい未来なのでしょうか。必要な人に今支援を届けられていないということでしょうか。</p> <p>ひきこもりやニートが社会問題になっていますが、その前段階に不登校があります。不登校になる理由は、家庭に居場所がない、友達関係、学習についていけないなど理由は様々です。そして、不登校になる予備軍の子がたくさんいることに目を向けてほしいです。不登校になる子は、どんな理由であれ、こんな自分はだめだと自分を否定しています。自己肯定感が低いのです。自己肯定感が低いまま大人になってしまったとき、少しの失敗で自分を社会から遮断して復帰が難しくなります。子どもの時に、失敗してもいい環境、自分が自分らしくあっていい環境、学習の進みが同じ学年の子を同じでなくてもいい環境が必要です。</p> <p>施策2でも述べましたが、学校には多種多様な子がおり、今の学校システムでは、個に応じた教育がやりにくく、置いてけぼりになってしまう子がでてしまいます。特に中学校の不登校数は深刻です。行政の都合に合わせた学校ではなく、子どもに合わせた学校も必要です。</p> <p>「不登校特例校」を西尾市に創ることで、通常の公立では叶わない、子どもに合わせた学校を創ることが可能です。どんな自分であっても認めてもらえる環境、実体験があれば、ひきこもりやニートになることなく、社会に出ていくことができます。不登校特例校は地域の学校であり、地域の先生を呼び学習するなど、地域活性化にもつながります。</p> <p>現在「あゆみ学級」がありますが、残念ながら「適応支援」という考え方では、不登校の子は不適應の子とみなしているということで、あゆみ学級に行きたいとは思いません。「あゆみ学級」も、公認のフリースクールとして、個々に応じた支援、「何を、いつ、どのように学びたいか」自分から考えられる学級、教員がついて学習を学ぶことができる環境であることが大切です。</p> <p>不登校特例校ができたなら、「あゆみ学級」と「コンパス」とも連携し、また農福とも連携しながら、子どもや若者が社会的に自立できる、自分が自分であっていいまちをつくっていけると思います。</p>	<p>不登校特例校は、少数の児童生徒を教職員やカウンセラーで指導するため、きめ細かな対応ができます。また、個別の時間割が組まれるなど、学習の自由度があり、子供の負担感が軽減されるなどのよさがあります。一方で、特例校では、教員、カウンセラーなど多大な人員とそれに対応できる施設が必要です。教員不足が深刻化する中で、特例校の教職員を確保することは特に困難と考えます。これらの理由から、教育委員会としては、現時点では、適応指導教室（あゆみ学級）、コンパスによる支援の充実を図ること、学校、保護者とも連携を深めていくことが最善の策であり、不登校特例校の設立を検討することは考えておりません。</p> <p>なお、適応指導教室（あゆみ学級）では、学習支援も行っています。通室している児童生徒の意思を尊重し、本人が学習の計画を立てて、その計画をもとに学習を進めています。適応指導教室支援員は計画を立てる際の助言等を行っています。そして、それぞれの計画のもと学習を進める中で、適応指導教室支援員が個別に指導を行います。最近では、学校で配付されたタブレット端末を使って学習をしている子もいます。端末内には、全学年、各教科の学習を網羅しているアプリが入っており、それぞれの子供の学習の進み具合に応じた学習を進めることができるようになっていきます。なお、適応指導教室（あゆみ学級）は、通室することで、在籍校では出席扱いとなっています。</p>

分野別基本計画 目標4 健康をつなげ 幸せがつながるまち

NO	いただいた意見	市の考え方
51	<p>やはり、吉良幡豆に関しては医療、福祉サービスの資源が足りなさるように思われます。なにか良い手段はないもののでしょうか。</p>	<p>地域医療全般にわたる医療体制の在り方を示す地域保健医療計画は、県が策定することとされております。この計画では、吉良幡豆といった限定した地域ではなく、西尾市、安城市、刈谷市、知立市、高浜市、碧南市の6市で西三河南部西医療圏とされており、この医療圏一体で計画を策定するものとなっておりますのでご理解をお願いします。</p> <p>障害福祉サービスについては、吉良幡豆地域の方につきましても他地域の方と同様に、相談支援事業所が市内外のサービス提供事業所と利用調整の上、適切にサービスが提供されるよう努めております。なお、新規にサービス提供事業所の立ち上げの相談があった場合には、事業者に対して吉良幡豆地域での開設を働きかけていきたいと考えております。</p> <p>介護保険サービスについては、吉良幡豆地区には、地域包括支援センターが1事業所、居宅介護支援事業所が6事業所あり、適切に介護保険サービスが提供されるよう努めております。なお、新規に介護保険事業所の立ち上げの相談があった場合には、事業者に対して吉良幡豆地区の開設を働きかけていきたいと考えております。</p>
52	<p>地域医療の項では、地域医療体制への満足度と市民病院の患者満足度での大きな乖離がある。どのようなことで乖離が生じるのか、原因は何か。分析されたうえで施策の展開方向に生かされているのか疑問です。</p>	<p>地域医療体制の満足度は、市民を対象とした西尾市の医療体制への満足度を示しており、市民病院の患者満足度は、市民病院利用者を対象とした市民病院の満足度を示しております。</p> <p>市民の医療体制への満足度向上のため、施策の展開として、地域医療体制の充実を図ってまいります。</p>
53	<p>健康づくりに関して「多様な生き方やライフステージに合わせて選択可能な事業を展開していく必要がある」と述べられていますが、まさにその通りです。</p> <p>しかし、一方で、「西尾市民げんきプラザ」を例に挙げられていますが、これは基礎疾患のある人や、65歳以上の市民を対象にした施策であって、全市民を対象にした取り組みではありません。また、令和2年度の市政世論調査結果報告では、1年間スポーツをほとんど行っていない人が全体の35%を占め、40歳代、50歳代においては、約40%近くの人がこれに該当している状況です。</p> <p>この現実を鑑みますと、指標として挙げられている「生活習慣の改善に取り組む人の割合」をライフステージ、特に現役世代、で分類し、各ステージ毎の目標設定が必</p>	<p>この指標は、特定健診の問診項目を用いており、国・県・他市町村と比較が可能なことから選択しており、現行のとおりとさせていただきます。</p> <p>なお、この指標は年代別となっておりますので、ご意見は今後の施策の参考にさせていただきます。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
53 の 続 き	<p>要と思われます。もちろん、「スポーツ（運動）の実施」だけが「生活習慣の改善」ではありませんが、「運動をすること」は「健康ライフ」の必須要件です。</p> <p>指標の再検討をお願いします。</p>	
54	<p>私は、高齢者福祉を考えることは、最も SDGs に関係することだと考えています。安心して年を取ることが出来るということは、人間の営みを持続可能なものにするために最も大切なことだと考えるからです。</p> <p>そのために、子供たちに対して、認知症の理解を深めることができたらと思っています。様々な場所で聞かれる認知症に関する知識は、その恐ろしさや大変さを伝えるか、あるいは予防や改善を目指すことであるような事な気がするのです。しかし、大切なことは認知症を正しく理解することだと思うのです。認知症による記憶力低下などの障害は、発症してしまえば仕方のないもので、それでも、認知症の方が安心して過ごせる環境を作ろうと思った場合、最も大切なのは周囲の人間の理解であると考えます。であれば、学校教育レベルで子供たちに認知症について理解してもらうことが出来れば、それは解決に近づけるのではないだろうかと思うのです。</p> <p>子供はいつか大人になります。そして、高齢者にもなります。すべての子供たちが認知症について理解すれば、極論それはすべての住民が認知症について理解することになるのかもしれないと思うのです。それは理想ですが、そのベースがあるかないかでは、未来は全く違うのではないだろうかと思います。</p>	<p>認知症を正しく理解することは世代問わず、重要なことだと認識しております。</p> <p>国が定める認知症大綱に基づき、「認知症サポーター養成講座」を定期的に開催しています。（令和3年度 27回開催）</p> <p>そのうち2回は小学生向けに開催し、50名の児童が参加しております。今後も全世代に対して、認知症に対する普及啓発を行ってまいります。</p>
55	<p>福祉ですが、前期高齢者の勉強したい意欲を高める施策として、「生涯大学」を開校してはどうでしょうか？そこで、引退した高齢者が講師となって、農業や剪定、掃除や整理、書道、パソコンなど、自分も参加したいと思います。</p>	<p>介護予防を主な目的とした各種教室・講座は開催しております。ご意見につきましては、今後事業を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
56	<p>高齢者の理解ということで、市民には「介護職員初任者研修」を受講して欲しい。そこで、市が補助金を出してほしい。介護や福祉の理解を深めるのに必要な知識だと思います。</p>	<p>個人の資格である介護職員初任者研修（ヘルパー2級）における補助金は行っておりません。高齢者への理解と知識を深める施策として「認知症サポーター養成講座」や「生活支援サポーター養成講座」などを実施しております。</p>
57	<p>指標として障がい児通所支援事業利用者数が示されていますが、それ以前に障がい児の相談をしてくださる事業所が増えておらず、相談員さんが受け持つ担当数も 100</p>	<p>にしお未来創造ビジョンは行政運営の指針となるもので、今後のまちづくりの方向性を示す総合的な計画です。</p>



NO	いただいた意見	市の考え方
57 の 続 き	<p>件を超えるとうかがっています。そのような状況では丁寧な相談をお願いしたくても心苦しく相談できる場所の質量ともに充実をお願いしたい。具体的には以下について盛り込めないでしょうか。</p> <p>○障がい児相談支援事業所数・相談員数 指標として示してほしい</p> <p>上記に関し、障がい児を持つ家庭などから受けた相談内容からすぐには解決できないが課題を検討し政策に反映できるような仕組みを動かす相談支援事業所（委託相談支援事業所）を増やすことも含めて盛り込んでほしい。</p>	<p>個別の施策については、指標化も含めて来年度策定する障害福祉計画の中で検討します。</p>
58	<p>にしお特別支援学校が開校されこれまで市外に出ていた子どもが市内で教育を受けることができるようになりましたが、卒業後の行き場が不足しているのが現状です。</p> <p>○生活介護や日中一時支援 事業所数 指標として示してほしい</p> <p>上記に関し生活介護利用後、同日に日中一時支援の利用ができるようにするなど柔軟な運用について文言化してほしい。（西三河で可能な市町村もある）</p>	<p>にしお未来創造ビジョンは行政運営の指針となるもので、今後のまちづくりの方向性を示す総合的な計画です。</p> <p>個別の施策については、指標化も含めて来年度策定する障害福祉計画の中で検討します。</p>
59	<p>障がい児、障がい者、高齢者福祉に共通することですが介護をする人に対する支援の視点がありません。その中でも障がい児の親は介護をすべて以下のような状況でも自助努力で対応しなくてはなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナで親や介助者、家族が感染した場合、預かっていただける場所、対策などがあると良い。</li> <li>・親の入院などの際には、退院後の安静期間なども考慮して短期入所の日数を設定してほしい</li> <li>・感染症に限らず、体調不良の際、致し方ない理由の時、預かってくれる場所があると良い。</li> <li>・理由に関わらず介助者の休息の為に当たり前に見える短期入所の制度があると良い。</li> </ul> <p>○上記を考慮した介護者の休息や緊急時の短期入所等の仕組みを構築し指標化してほしい。</p>	<p>にしお未来創造ビジョンは行政運営の指針となるもので、今後のまちづくりの方向性を示す総合的な計画です。</p> <p>個別の施策については、指標化も含めて来年度策定する障害福祉計画の中で検討します。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
60	<p>社会保障の項の施策の展開方向で示される、福祉医療制度の充実の内容は、福祉医療制度を維持継続することとあるが、現状維持ではなく充実する方向を示すべきです。</p>	<p>本市では令和4年4月より、これまで中学3年生年度末までの方を対象としていた子ども医療費助成を18歳年度末までの高校生世代の方の入院医療費まで拡大したところですが、医療費は年々増加する傾向にあるため、今後も限られた財源を有効活用し、安心して医療を受けられるように制度を維持してまいります。</p>

分野別基本計画 目標5 いのちを守る 暮らしを守る 環境を守るまち

NO	いただいた意見	市の考え方
61	<p>河川海岸の項での流域治水による水害対策の取り組みますとあるが、具体的には何をどのように取り組むか、あまりに漠然としているので明確化を。</p>	<p>流域治水の具体的な取り組みを追記します。</p> <p>「施策の展開方向」1⑤修正後「あらゆる関係者と密接に連携し、流域治水による水災害対策として、排水機による事前排水や水害ハザード情報の発信などに取り組みます。」</p>
62	<p>一色町などの新田を太陽光発電の一大集積地として推進する。(廃棄物処理場より方向性が良い)</p>	<p>現在、一色町の沿岸部を中心に多数の太陽光発電施設が設置されている状況にありますが、一大集積地として大規模な太陽光発電施設の設置には、送電設備や変電設備に課題があると認識しています。</p> <p>カーボンニュートラルに向けても太陽光発電の推進は重要であります。大規模な太陽光発電施設の設置については、電力会社との連携はもとより、周辺住民の生活環境への影響も考慮したうえで推進することが望ましいと考えております。</p>
63	<p>地球環境の項の、指標で太陽光発電の設置件数の目標値が示されている。高い目標設定は良いが、その目標を達成するための具体的な方策はどのようなか示されたい。</p>	<p>目標達成のための具体的な方策については、現行の住宅用太陽光発電設備設置補助事業の更なる啓発と事業の継続に努めてまいります。このほか、公共施設や低未利用地などでの太陽光発電設備の設置も検討してまいります。また、国では設置に対して融資や税制等の支援措置が検討されているようで、国の施策も期待されるところです。</p> <p>今後も国や県の動向を見ながら、市、市民、企業が協力しあい、あらゆる可能性を探り、できることを進めてまいります。</p>
64	<p>ゴミ削減目標について(総合計画案 p94 及び 95)</p> <p>施策4 環境衛生の中の展開方向1において、ゴミの減量と資源化がありますが、SDGs を意図して行くとしたら、p94にある指標のゴミ排出量目標値自体があまりにも低くはないでしょうか？施策の展開方向1-②の生ゴミの減量についても、現在行われていることだけが書かれていて、意欲的に取り組もうという意気込みは感じられません。食品ロスはどのように削減していこうと考えていますか？ぼかしの配布はどれほどゴミ削減に有効になってきましたか？昨年度から開始している雑紙の回収はどれほど効果がありますか？それらこれまでのデータを踏まえ、SDGsのターゲットである2030年を2年も越えた2032年に向けたふさわしい目標を掲げる必要があるのではないのでしょうか？</p>	<p>令和元年度の市民1人1日当たりのごみ排出量は1,060gであり、平成29年度の1,028gから32g増加しています。また、愛知県平均の915gを大きく上回っています。このようにごみ排出量が増加するなかでの目標設定となっています。</p> <p>にしお未来創造ビジョンは行政運営の指針となるもので、今後のまちづくりの方向性を示す総合的な計画です。ゴミ削減に関する個別の施策については、第2次環境基本計画の中で詳細を定めており、本計画に則り実施してまいります。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
64 の 続 き	<p>常設の資源ごみ分別ステーションを増やすことは現時点では難しいと9月議会の答弁にはありましたが、10年後もずっと難しいとは思えません。今できるか出来ないかではなく、10年後がどうであって欲しいのかをイメージして立てるのが基本構想である、総合計画の役目であるべきだと思います。環境意識が今より格段に上がっていて当然の10年後に向けて、ぜひ意欲的な目標値の設定をお願いしたいです。</p> <p>また市民の環境意識の向上がゴミ削減には、何よりも必要な要素です。それに対しての取り組みや方向性についても、ぜひ前向きな言葉を載せて、有言実行をしていくことを宣言してみたいはかがでしょうか？</p> <p>目標は立てたなら、達成するのがベストです。しかし達成だけに価値を見て、難しそうな目標なら、最初から安売りして下げてしまうのは、違います。高い目標に向かってチャレンジをしていくプロセスに一番の力があるものです。できそうな無難な目標には力はありません。</p> <p>ぜひ2030年の西尾市民のために、意欲的な目標値を掲げる勇気を出してください。私はそんなまちなら、子どもたちに堂々と誇ることができます。</p>	
65	<p>環境衛生の項では、指標である、1人当たりのごみ排出量でも、リサイクル率でも目標値は大変低い水準ではないかと思う。目標の設定の考え方と、それに見合う施策を求める。</p>	<p>1人当たりのごみ排出量の指標設定とごみ削減の施策については、上記64の「市の考え方」とおりです。</p> <p>また、ごみ総排出量が増加する傾向のなか、ごみ排出量の削減とともに、ほぼ横ばいとなっているリサイクル率は向上させていく目標設定となっています。</p>
66	<p>P94 ごみ排出量やリサイクル率の目標をもっと高めていいのではないか。</p>	<p>ごみ排出量やリサイクル率の目標については、上記64、65の「市の考え方」とおりです。</p>
67	<p>市民への情報として、「防犯カメラ」の設置補助が欲しい。</p>	<p>「防犯カメラ」の設置補助については、目標5 施策番号6 防犯・交通安全の施策の展開方向「1 防犯意識の向上・地域安全活動の推進 [561]」の「防犯灯設置の充実など」に含まれており、平成28年度から町内会を対象とした補助を実施しています。</p>
68	<p>自転車の法令や運転知識を高める活動をして欲しい。</p>	<p>自転車の法令変更に伴う情報については、市のホームページで随時更新し啓発活動を行っています。また、目標5 施策番号6 防犯・交通安全の施策の展開方向「2 交通安全意識の向上 [562]」の「交通教室」には、自転車の交通教室も含まれております。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
69	<p>防犯交通安全の項で、指標に、犯罪件数が出ているが、ジェンダーの視点から女性の性被害は重点で、SDGs からも特に大切であり施策の展開方向でも指標でも打ち出されたい。</p>	<p>本計画の指標として考えております犯罪発生件数は、ご意見いただきました女性に対する性犯罪も含まれたものとなっております。</p> <p>本市といたしましても、性被害の防止は大変重要だと考えておりますので、引き続きほかの犯罪と併せて防犯啓発活動を展開してまいります。</p>
70	<p>空家問題の本質は、空き家をそのままにしておくことです。それは、空家を倉庫替わりとし、片付けが面倒で費用がかかるからです。また、その必要性も感じないためです。そこで、この片付けて空家を有効利用するメリットを検討して発信して欲しいです。</p>	<p>現在、空家対策は、放置した際のデメリットをあげ、空家の未然防止や適正管理につなげております。</p> <p>公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会と協定を結び、空家に関する相談や質問ができる「空き家相談窓口を」を開設しております。そのほかに、空家の利活用の促進を目的として、「空き家バンク」を開設しており、賃貸や売買を希望する空家の情報を集約してウェブサイト等へ掲載し、空家の利活用を希望する方との媒介を行う仕組みとなっております。</p> <p>今後も、市の取組が浸透するよう、広報などを活用して、さらなる情報発信に努めてまいります。</p>
71	<p>消防の項では、消防水利の整備数が出されている。同じように、消防力の整備指針に基づく充足率で最も遅れている、人員の充足率も指標に加えられたい。</p>	<p>西尾市の職員定数は条例で定められており、ご指摘いただいた人員の充足率については市として目標とする数値ではないため、指標の目標値とすることは考えていません。</p>

分野別基本計画 目標6 誰もがキラキラと輝き、誇り・愛着の持てるまち

NO	いただいた意見	市の考え方
72	<p>以前より世界から見て日本は、女性の社会進出や女性管理職の少なさが際立って低いことを指摘されてかなりになります。そして今回の総合計画を見てみて、行政の中での女性管理職を増やすなど、真の男女共同参画に対する西尾市自体の前向きに取り組もうという意識が薄いのか、どこにもその文言がありません。市民の半分が女性であることを踏まえ、本当に男女共同参画をここからの10年で意図していくなら、当然女性管理職の増加を載せるべきではないでしょうか？</p> <p>西尾市で男女共同参画のための市民会議が開かれるようになって15年と聞きました。15年話し合いだけをして、実際には変化がないようでは、市の態度が疑われても仕方がないと思います。行政サービスの中には、子育て、福祉等、女性の人生や暮らしが大きく関わる項目がたくさんあります。実際に日々の暮らしのなかで子育て等をしてきている女性が、その業務に対して経験から知恵を絞って取り組んでいただければ、西尾市で安心して子育てをしようという気持ちにつながるとおもいます。ぜひ男女共同参画に関しての意欲的な取り組みを検討してください。</p> <p>また女性議会が学生議会からの事業化件数(p104)の数字に関して質問です。私は第1回の女性議会に登壇させていただき、次回の第4回に2回目の登壇をさせて頂く予定ですが、これまで4年間で14件も事業化したという数字に驚きました。何人も友人がこれまで登壇しており、それほどの事業化率だとは認識していませんでした。単に私が知らなかっただけでしょうか？具体的にどの事業をどのように事業化したのか、ぜひ知りたいです。そしてそうであるなら、もっと学生議会や女性議会を単なる模擬議会以上に、市民が直接市に提案し実現することもできる市民参画の場として、PRしていくことをおすすめします。確実に西尾市の好感度をあげることに繋がるとおもいます。</p>	<p>現在、第2次西尾市男女共同参画プランの取組の一つとして「管理職への女性の積極的登用」があります。市職員や教員の管理職へ女性を登用することを促進しており、その結果、令和2年13.3%だったものが、令和4年度には16.2%と増加しております。</p> <p>にしお未来創造ビジョンにおける施策の展開方向として、新たな西尾市男女共同参画プラン(第3次西尾市男女共同参画プラン)を策定することとしております。同プランの中でも、管理職への女性登用をはじめ、様々な男女共同参画に関する施策の策定を検討してまいります。</p> <p>平成30年度から実施している女性議会及び学生議会では、毎年多くの意見や提案を頂いており、その一部は実際に事業化したり、次年度以降の予算に反映したりしています。</p> <p>例えば、令和3年度の意見・提案を受け、子ども食堂の活動に対する支援や男性職員の育休取得率向上のためのキャリアデザイン研修等を実施しています。</p> <p>ご意見のとおり、事業化等した件数及び内容を広くお知らせすることで、女性議会・学生議会参加者の満足度が上がるとともに、市民と行政が共に考え、行動するまちづくりの推進をPRする場にもなりますので、今後、市ホームページでの公開を検討してまいります。</p>
73	<p>市役所内の職員向けのDX化(働き方)の推進。大手企業水準を目標に、市内企業をリードいただくような大胆なDX化に取り組んでいただきたい。</p>	<p>職員向けのDXについては、目標6 施策番号2 デジタルトランスフォーメーション(DX)の施策の展開方向「2 デジタル技術による業務プロセス改革 [622]」に記載があるとおり、積極的に推進してまいります。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
74	<p>目標6・施策3：西尾市ファンの獲得あるいは知名度向上欄に、例えば「西尾市で一番」と自慢できる人・物を収録した西尾版ギネスブックを作成できないでしょうか。各自が自分やまちの自慢を持ち寄り、それを形にすることで市民が誇りを持てるようになるのではないかと考えます。それらを持ち寄るイベントを「N（西尾）1グランプリ」とし、開催することで、まちのよさが詰まったイベント・交流が生まれると考えます。</p>	<p>にしお未来創造ビジョンは行政運営の指針となるもので、今後のまちづくりの方向性を示す総合的な計画なので、個別事業の記載はできかねますが、今後事業を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
75	<p>P109 3-①「西尾から」と世界に誇れる どういう意味かわからない。</p>	<p>多彩な産業や人材、自然環境、食資源、歴史、文化など本市の強みをシティセールスする際に、その起源が「西尾から始まっている」「西尾で創られた」ことを日本だけでなく、世界にも誇れるものとして発信していくという意味を表しています。</p>
76	<p>定住補助金。若い世代の住宅新築費用の補助や土地代の補助など。</p>	<p>定住促進、若い世代の住宅新築費用の補助として、西尾市結婚新生活支援補助金制度を設け、夫婦の合算所得が500万円未満の若年新婚世帯の新築住宅購入費に対し30万円を補助しており、今後も同制度を通して定住促進を図ってまいります。</p>
77	<p>私は「西尾未来づくり会議」の中で、将来の人口減（特に生産年齢）の減少に備え、西尾市への移住・定住者の増加・確保のために、観光・文化、産業（商・工・農）、教育、医療・介護等々の各分野の民間・公の組織横断の情報発信ができる組織の創設を提案して参りました。</p> <p>今回の総合計画案の中では、随所に西尾市の魅力を発信する施策を散りばめて頂いている上に、「目標6」中の「施策3」のシティプロモーションはまさに、私が提案していた内容を反映して頂いている内容になっているとの認識で、大変ありがたく思っています。この施策の中に「①多彩な産業や人材、自然環境、食資源、歴史、文化といった本市の強みをブランディング化し、「西尾がいいね」と選ばれる、「西尾から」と世界に誇れるシティセールスを推進します。」との記載や、「②「西尾市シティプロモーション大使」やインフルエンサーなどと連携し、本市の持つコンテンツを積極的にPRします」との記載があります。私もまさにその通りかと思えます。</p> <p>この情報発信を行う上で、重要なことは、移住・定住者が必要とする情報が、例えば産業（仕事）のみに限られることはなく、家族（現在乃至は将来の）の住環境（医療や教育）、休日のレジャー等多岐にわたることです。画一的な情報発信ではなく、幅</p>	<p>移住・定住施策を推進する上で情報発信は重要ですので、幅広い情報発信について、施策3「シティプロモーション」の施策の展開方向4の①を下記のとおり修正します。</p> <p>「将来の社会の担い手となる10代～30代をターゲットとした定住・移住促進を図るため、市内の企業や人材と連携し、仕事や住まい、福祉、教育、医療、レジャーなど、幅広い暮らしの情報を提供するとともに、地域の特色を生かした働き方を提案・支援します。」</p> <p>また、組織や地域にとらわれない連携やその他いただいたご意見は今後の施策や事業検討の参考とさせていただきます。なお、既存組織にとらわれない施策ということですが、28ページから37ページの「にしおワクワク戦略」に掲げる各施策はそうした考え方に基づき作成したものです。</p>

NO	いただいた意見	市の考え方
77 の 続 き	<p>の広い情報を統一にかつ適時的確に届けていく必要があります。</p> <p>観光協会や文化協会、スポーツ協会の行うイベントに、例えば商工会が行う民間企業の展示会や企業説明会（就職支援）のイベントをジョインする（西尾マラソンが規模は小さかったですがそういったイメージでしょうか）等、組織や地域（旧西尾市、旧一式町、旧幡豆郡等）を跨いだ連携から生まれる情報発信が必要だと考えます。</p> <p>ぜひ、そういった組織や地域にとられない連携方法（横串組織の創設等）の枠組みを施策に織り込んでいただければと思います。市役所内でそれが可能とのことであれば、各課との連携方法がわかるとありがたいです。不躰ながら、素人意見で大変申し訳ございません。総合計画策定の一助となれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>	
78	<p>情報発信として、西尾市のコミュニティラジオはどうですか？それを市役所やベルサから公開放送なんて、楽しいと思います。</p>	<p>今後事業を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
79	<p>コミュニティの項の、特別加算事業実施数は、前述しているように、コロナ禍での現状値であり、特に、影響を受けたところなので、修正されたい。</p>	<p>特別加算事業は、令和3年度から施行したものであり、この指標は、全体的に地域コミュニティの活性化を図るため、10年後には市内全校区コミュニティ（26団体）で特別加算事業を実施していただくことを目標としております。コロナの影響もありますが、始まったばかりの事業であることから、指標は現行どおりとします。</p> <p>参考までに、2021年の特別加算事業は、7件予定されていたものが、コロナで中止となり2件となったものです。</p>
80	<p>第8次総合計画の数カ所で佐久島についての記述があります。観光客の増加だけでなくワーケーションや定住者の増加についても書かれています。私は3年前まで3年間、佐久島しおさい学校に息子が在籍したこと等もあり、佐久島の暮らしなど身近に感じられています。そんな中で感じるのは日々の暮らしのハードルの高さです。</p> <p>島生まれの方や島を職場などに選んでいる人は、多くの不便があることは当たり前前に感じていることとは思いますし、そうした不便さを全て解消しないわけでもありません。しかし少なくとも、日々の暮らしの中で、買い物や病院等のために船を使うたびに、観光客と同じ額の大人往復1640円を支払う暮らし。また観光客が多いとその船に乗る必要のある住人が乗船できないなどの不便さは、市が改善することができるこ</p>	<p>ご指摘のとおり島で暮らすにはほかと比べてハンデが大きいことが移住定住につながる理由の1つであります。</p> <p>こうした状況を踏まえて、現在西尾市が実施している事業として、島の住民のみ購入できる往復1,000円の島民乗船券があります。同じように病院、学校に通う人には助成制度があります。ゴールデンウィーク、夏季など乗船場が混雑する時期には島の住民の方には優先して乗船していただけるよう配慮しております。</p> <p>また、2年前にはインターネットの光回線が整備され在宅でも仕事ができるようになりました。今後も少しでも不便さをサポートしながら格差が縮まるよう努めてまいります。</p>



NO	いただいた意見	市の考え方
80 の 続 き	<p>との不便さだと思います。</p> <p>佐久島への観光客があれだけあれば、住民には住民割引の格安乗船券があってもいいし、住民だけ観光客とは別で優先乗船をさせてあげることできるし、するべきではないでしょうか。そうした島民に対するケアがあれば、もっとあの日本の原風景があるようなのどかな島で暮らしてみたいとおもう人もいると思います。</p> <p>島は不便ですが、その不便さを少しサポートすることが、未来の佐久島につながると思います。ぜひこうした施策を前向きに検討してください。</p>	
81	<p>P113 2-①インフラの集約、撤去については触れられているが、再編、複合化、機能転換については考えないのか。国交省の計画ではそうしたインフラのストック効果を高めることが大切だと書いてあるのだが。</p>	<p>「インフラの集約、撤去」を「公共施設の新設や更新、統廃合」に読み替えて回答します。</p> <p>再編、複合化、機能転換については、新設や更新、統廃合に含んでいます。公共施設の計画的な整備・維持管理を行っていくうえで、新設や更新、統廃合の際に再編、複合化、機能転換を含めた様々な方法について検討してまいります。</p>
82	<p>現在職員を対象としているワクワク西尾創生コンテストを市民向けにも開催。</p>	<p>ワクワク西尾創生コンテストは、市職員の政策立案能力やプレゼンテーション能力向上を主な目的としています。市民の皆さんのご意見や考えについては、市政懇談会や市民の声など既存制度で対応してまいります。</p>